

大津東地域 散策マップ

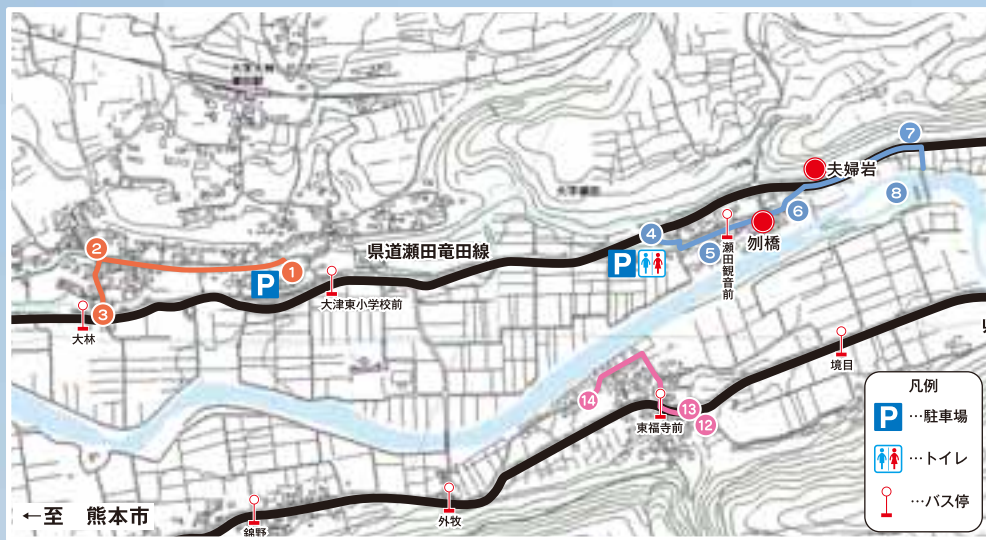
治水事業発祥の里



大津東地域の主な年間イベントスケジュール

5月	新茶まつり
7月	各神社 夏の大祭
9月	瀬田観音堂子供相撲、岩戸の里感謝祭（農業祭）
10月	外牧観音堂先祖供養、子供相撲、秋祭り等

大林 瀬田 外牧 散策コース



有形文化財と水の守りの神の恩恵コース 約30分

- 宝満神社(大林牛舞) 徒歩 ↓ 約2分
- 地藏橋 徒歩 ↓ 約3分
- 樋口橋 徒歩 ↓ 約5分
- 宝満神社

江戸時代の繁栄の史跡めぐりコース 約30分

- 外牧神社 徒歩 ↓ 約1分
- 外牧観音堂 徒歩 ↓ 約5分
- 旧外牧代官屋敷門 徒歩 ↓ 約5分
- 外牧神社



大林宝満公園の水車

内牧 散策コース



自然の潤い 心と体の癒しコース 約120分

- 大津温泉岩戸の里 車 → 約5分
- 岩戸溪谷・岩戸神社 車 → 約5分
- 白川発電所 車 → 約10分
- 大津温泉岩戸の里



大津温泉 岩戸の里



稀に拝める岩戸溪谷の滝



白川発電所(外観)

大津東地域 散策マップ

治水事業発祥の里

大林 瀬田 内牧 外牧

Copyright : 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

至 阿蘇市

←至 熊本市



阿蘇大津
ゴルフクラブ

国道 57 号



山椒茶屋大津店

大津温泉岩戸の里



大津温泉
岩戸の里

内牧

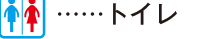
内牧東

岩戸の里入口

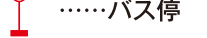
凡例



……駐車場



……トイレ



……バス停

県道瀬田竜田線

大津東小学校前



大津東小学校

県道瀬田熊本線

夫婦岩

瀬田観音前

勿橋

境目

東福寺前

←至 熊本市

錦野

外牧

大林

① 宝満神社



もともと大宰府の窟宝満宮（窟門）を勧請した社と伝えられている。主祭神玉依姫は海神の持つ水を自在に支配する力を祈ったもので、水利の要である井手の守りに相応しい神で奉納される大林の牛舞は、水の恵を祈った大林の人々が強く踊る大津町の指定文化財となっている郷土芸能である。

② 地藏橋

明治中期（1882 年～ 1892 年）大林の出分地区の上井手に石で造られた橋。当時の牛馬車が通行できる石造橋は見事。橋の南の畔に地藏尊が祭られていることから地藏橋と名付けられた。



③ 樋口橋

明治中期（1882 年～ 1892 年）大林の出分地区の下井手に石で造られた橋。当時の牛馬車が通行できる石造橋は見事。樋の口、下井手から白川沿いの水田や精米所の水車に水を導く堰の所にできた橋で「樋口橋」と名付けられたと思われる。

④ 瀬田人の会直売所

平成 19 年、旧瀬田村の融和親睦と地域活性化のため結成された地域団体。週末には地産の野菜や米、お茶、大津カライモの焼き芋、搗きたて餅などを販売。春の新茶まつりや秋の秋祭り、大津東小学校との地域連携体験学習等の拠点。



⑤ 瀬田観音堂

応永 7 年（1400 年）頃の室町初期に創建。合志三十三観音田迎山安養寺四十四番札所十一面観音菩薩 2 体と阿弥陀如来 1 体（明治の神仏混合廃止により、瀬田神社からこの観音堂に収められた。）の 3 仏が祭られ、秋には周辺の子供が集まり子供相撲が行われる。

瀬田

⑥ 屋形井樋



加藤清正公以来の治水事業の導水の工法の中でも、屋形式井樋はこの井樋だけに残っている。この屋形井

樋は水門の資材を備蓄し番人を常駐、水量の調整と点検補修等が迅速にできる管理された井樋で、熊本県下この 1 カ所のみで、貴重な歴史的建造物といえる。

⑦ 瀬田神社

元亀元年（1570 年）当時の領主合志氏が郡の守り神として瀬田の地に創建。春は桜、初夏は蛍が楽しめる。境内には岩の麓から清らかな水が湧き出て周辺の人々から愛飲されている。小賀玉ノ木（古代玉具し）は、創建時宮崎青島神社より苗木を植樹したもので樹齢が古く、古今伝授三木の一つ。



⑧ 冑岩



瀬田神社の南、白川の中央に鎮座している巨大な石。謂れには、その昔阿蘇大明神が冑を脱ぎ投げ飛ばした冑が石になった説と、加藤清正公がこの石に冑を脱いで井手の導水工事の成功を祈願した説がある。

⑨ 上井手取水口



天正16年加藤清正がこの地に堰を設ける計画を立て、子息忠広公が元和 4 年（1618 年）に起工。その後細川忠利公が大津から菊陽へと難工事を成し遂げ、細川光尚公が坪井川まで伸ばし、現在も大津、菊陽以西下流域の農業生産の豊穰を担っている。

天正16年加藤清正がこの地に堰を設ける計画を立て、子息忠広公が元和 4 年（1618 年）に起工。その後細川

内牧

⑩ 岩戸溪谷・岩戸神社

永年 4 年（1504 年）創建。内牧の畑地区の東、清涼な空気と清水の美音を聞きながら溪谷の頂上に数条の飛沫が舞う滝の下、断崖絶壁が大屏風を立てた様な広い敷地に神仏二神、仏様三仏が祭られた神仏合祀の貴重な神社。



⑪ 白川発電所



で、近代化に貢献した洋風の赤煉瓦造りの貴重な遺産。

※普段は施錠されているため、フェンス越しでの見学が可能。

岩戸溪谷駐車場の東、北向き山の裾野白川沿いにある大正 3 年（1914 年）日本窒素肥料（株）（現 JNC 株）の水力発電所

外牧

⑫ 外牧神社

寛文 11 年（1634 年）この地の東境目に創建。宝永 8 年（1680 年）現在地葉山殿に遷宮、本殿の下から霊泉が湧き出ている。祭祀は阿蘇十二神の一神（健甕龍神）。



⑬ 外牧観音堂

天和 2 年（1682 年）国武家二代目当主正膳（正心）が境目（狐石）庵を結び、その後外牧神社の移築の際、本地に移る。祭祀は十一面観音菩薩（江戸初期）毘沙門天、馬頭観音菩薩、不動明王で宝暦 7 年（1757 年）の作。五穀豊穰、慈悲や安産（牛、馬）を祈願し、毎年 10 月 18 日には祈願法要し、子供相撲が奉納される。

⑭ 旧外牧代官屋敷門

寛永 11 年（1634 年）国武氏四代当主が観音山を切り開き外牧村庄屋となり、細川藩家老長岡監物の家臣となり、寛保 3 年（1743 年）白川沿岸の 3 郡 17 村の領地を奉行し明治 36 年まで続いた。総面積三百坪、部屋数 23 と造りは見事だったが、その面影は東側の観音堂と代官所の門（公民館に移築）が残るのみ。